

「子どもや家畜のことに気を奪われて心がそれに執しゅうじゃく著している人を、
死はさらって行く。・・・」

法句経の二八七番目の言葉です。

私たちは、生きていく中、様々な場面で問題の解決をはかってゆきます。一瞬一瞬様々な事に出会い、判断してゆく。その判断は、その時の自分、自分の家族、そして自分の所属する組織の利益のみに偏ったものになってしまう事もあります。また、楽しい事、楽な事に目を向けがちで、苦しいこと、辛い事から目をそむけがちです。そのような事では正常な判断はできません。人は過ちを繰り返してゆくのですが、その時々判断によって、影響を受け、大きな問題になっていく事があります。

たとえば、公害の問題。第二次世界大戦後、日本は復興のために工業に力を注ぐこととなります。人々も戦後の貧困から抜け出す為に一生懸命働きました。しかしながら、工業排水や排煙の処理に力を注ぐよりも、少しでも多くの製品を安く造るために多くの労働力が必要となり、都市に人口が集中。排水の処理設備が間に合わず、環境汚染、環境破壊が起こります。大気も汚染され、健康被害を受けた方々も多く、子どもたちにまで影響を及ぼしました。

その時々それぞれの立場で判断した事ですが、このような結果をもたらすと考えた方は誰もいなかったのでしょうか。いなかったわけでは無いのかも知れません。ただ、多くの方は自らが守らなくてはならないものの為に、警告が耳に入らなくなっていたのです。

近年、全国ではそんな汚染された河川を浄化する取り組みが行われています。汚すのは一瞬ですが、それを浄化する為にはその何倍もの年月がかかります。これからは自身の行いを思慮深く顧みていく必要があるのではないのでしょうか。

— 終 —